

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成26年8月28日(2014.8.28)

【公開番号】特開2012-126884(P2012-126884A)

【公開日】平成24年7月5日(2012.7.5)

【年通号数】公開・登録公報2012-026

【出願番号】特願2011-200608(P2011-200608)

【国際特許分類】

C 11 D 17/08 (2006.01)

C 11 D 3/20 (2006.01)

C 11 D 1/75 (2006.01)

【F I】

C 11 D 17/08

C 11 D 3/20

C 11 D 1/75

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月14日(2014.7.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

特許文献4には、親油性物質としてジプロピレングリコールモノブチルエーテルを含有する浴室で遭遇する汚れの除去に適した水性クリーニング組成物が開示されている。しかし、ジプロピレングリコールモノブチルエーテルは組成物の粘性を上げるためのハイドロトロープ剤として配合されているのであり、特許文献4では親油性物質の洗浄効果については何ら示唆していない。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

【特許文献1】特開2008-45108号

【特許文献2】特開2000-290699号

【特許文献3】特表2003-506561号

【特許文献4】特表2001-524592号

【特許文献5】WO93/04151号

【特許文献6】特表平11-511800号

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

(a)成分と、(b)成分及び後述する(c)成分の合計量との質量比として、(a)/(b)+(c)=1/1~15/1が好ましく、1.2/1~14/1がより好ま

しく、1.5/1~13/1が更に好ましい。油汚れに対する洗浄力の観点から1/1以上が好ましく、1.2/1以上がより好ましく、1.5/1以上が更に好ましく、高温保存安定性の観点から15/1以下が好ましく、14/1以下がより好ましく、13/1以下が更に好ましい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

(c)成分の含有量は、本発明の硬質表面用液体洗浄剤組成物中において0.01~1.5質量%であり、0.05~1質量%の範囲が好ましく、0.1~0.7質量%の範囲がより好ましく、0.1~0.5質量%の範囲が特に好ましい。保存安定性の観点から0.01質量%以上であり、0.05質量%以上が好ましく、0.1質量%以上がより好ましく、洗浄性の観点から1.5質量%以下であり、1質量%以下が好ましく、0.7質量%以下がより好ましく、0.5質量%以下が特に好ましい。(c)成分としてセッケンを除くアニオン性界面活性剤を用いる場合、当該含有量としては0.02~0.6質量%がより好ましく、0.1~0.5質量%が更に好ましい。(c)成分として両性界面活性剤を用いる場合、当該含有量としては0.1~0.6質量%がより好ましく、0.3~0.5質量%が更に好ましい。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

[変性大豆油汚れの作成法]

市販大豆油(和光純薬工業品を使用。購入後3ヶ月以内のものを使用)をステンレス製50mLビーカーに40mL加え、上部を大気に開放した状態で180 1時間加熱し、室温(25±5)に自然冷却した。この熱処理油99質量部に対しオイルオレンジSSを1質量部添加し、室温でよく混合した。このモデル汚れをステンレス板に1平方センチメートルあたり1.4~1.6mgとなるようにできるだけ均一に塗布し、室温で1週間放置した。この汚れを洗浄評価に用いた。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

(洗浄性能II)

市販大豆油(和光純薬工業品を使用。購入後3ヶ月以内のものを使用)をステンレス製50mLビーカーに40mL加え、上部を大気に開放した状態で180 50hr熱処理(電気恒温機使用)し、室温に自然冷却した。この熱処理油99質量部に対しオイルオレンジSSを1質量部添加し、室温(25±5)でよく混合した。このモデル汚れをステンレス板に1平方センチメートルあたり1.4~1.6mgとなるようにできるだけ均一に塗布し、直ちに上記と同様の洗浄評価を行った。